

子どもの苦手を大人がつくっていませんか？

食事中、子どもが料理を口に入れない時にどのような言葉かけをしていますか？

もし、「これは苦手なのかもね」と大人が理由を決めてしまって、そのような言葉を掛けることで、『自分は、これが苦手なんだ』と子ども自身が思い込むことがあります。

特に語彙が少なく言葉がまだ話せない子であればなおさらです。

ある程度おしゃべり出来る子は『何かザラザラするから』『一口が大きかったから』など理由を答えてくれることもあります。

子どもの考え方や捉え方は、まだまだ未熟です。

大人の言葉掛け次第で、どうにでもなります。

であれば、子どもが不安を抱いている時、あるいはやりたいけれど一歩が出ない時など「これって凄く美味しいよ〜」「これは、こうすると楽しいからやってみよう」などポジティブな言葉を選んで下さい。それによって勇気づけられ、やってみようと思うかもしれません。

子どもがよく聞く言葉がその子の性格を構築したり、チャレンジ精神を持つように育つでしょう。

さて、大人の言葉かけが子どもに大きく影響するのはいつからでしょうか？

0歳～

100%の自信をもって生まれてくる。

3～9歳頃

自分以外を意識し始めて、自分と他者の違いに気がつき、自信が揺らぐ。

8歳頃～

自分を客観的に判断できるようになってくる。また、他の子どもと発達の差が表れやすいため、劣等感を抱くことも。

赤ちゃんの時から周りの人の声掛けを聞いて育ちますが、2・3歳頃から他者への意識が高まると共に脳の成長も著しく、さまざまなことを理解していきます。

子どもへの声掛けも『認める・褒める・感謝をする・ポジティブな言葉を選んで伝えていく』ことで自己肯定感も高まっていきます。

『靴履かないと〇〇公園に行けないよ』と言うのと、『〇〇公園に行くから靴を履いて一緒に歩こうね』とでは、公園に行く目的は同じですが、どちらが子どもにとって良く伝わるでしょうか？

日頃からいろいろな話をしてくれる身近な大人の言葉かけが、子どもの未来を創っていくので、伝え方には意識をしていきたいですね。

(北嶋)

子どもの自己肯定感を下げってしまうNGな言葉かけをいくつか紹介します。

①劣等感を抱いたり、競争意識ばかりが先行してしまう可能性がある言葉かけ

『〇〇くん(ちゃん)は出来ていたのに』 『さっき(昨日)も言ったことだよ』

②なぜ、このような言葉を言われているのかを理解はしていないが、指示に従う

『早くしなさい』 (『〇〇しなさい』は命令)